

哀愁

～令和2年度第2回学校運営協議会巻頭言に寄せて～

校長 川村 真弘

初春の令月にして、気淑く風和ぐ。梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す。万葉集の歌から生まれた元号、令和。今年はその2年目でした。

令和2年度も学校運営協議会の皆様には本校教育活動をご支援いただき、また、COVID-19感染症対策にもご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございました。本来であれば委員の皆様と直接お会いして、ご挨拶差し上げるべきところですが、2回目の緊急事態宣言発表の中、かないません。甚だ恐縮ではございますが、本稿にてお礼を申し上げます。

並木の街に「横浜市立並木第一小学校」が設立されて42年。建築家巨匠槇文彦氏によるデザインに優れ凜として美しい学校は皆様に支えられて時を重ねて参りました。私はその内の7年間分と一緒に歩ませていただきました。不徳の致すところ多々ありながらも、素敵な思い出がたくさんあって、川村真弘自身の人生に素晴らしい彩りも添えていただき、感謝の念に堪えません。

ところで先般、並一博演技発表を地域の方にご指導いただいた折、講師が同郷の方ということもあって、地域学校協働本部Pハートルームにて、「函館の青柳町こそかなしけれ友の恋歌 矢ぐるまの花」と、石川啄木の歌で故郷を偲んだことがありました。歌は万感の想いを共有させてくれるのだと感慨深かったです。

学校運営協議会の皆様と会えない時間が続きますが、ある時ふと私の心に浮かぶメロディがありました。♪会えない時間が♪愛育てるのき♪『よろしく哀愁』（作詞：安井かずみ 作曲：筒美京平 編曲：盛岡賢一郎 歌：郷ひろみ）昭和49年9月のヒット曲。なぜか、昭和歌謡「よろしく哀愁」の一節が言い得て妙、心を打ちます。

「目をつぶれば君がいる」一方ならぬお世話になりご厚情を戴いた皆様を思い浮かべます。7年の長きにわたり、たいへんお世話になりました。深く感謝申し上げます。

日常が戻り、地域のお祭りやサマーフェスティバル、もちつき大会などが再開されたら、遊びに来てもよいですか。その時はぜひカラオケ大会。よろしく哀愁、歌います。